

画を立てますが、2007 年以降も企業の撤退が続いています。つまり企業がリニアに大きな期待をしていないことがわかります。

2008 年	松下電器甲府工場	移転
2011 年	日立電線フィルムバイス	停止
	富士電機デバイステクノロジー	移転
	東京エレクトロン山梨	移転
2012 年	三井金属アクト	閉鎖
	甲府カシオ	閉鎖
	NEC コンピューターテクノ	人員削減
2013 年	メディアテック	閉鎖
	古河電工産業電線	閉鎖
2014 年	山梨三光	閉鎖
2015 年(予定)	ルネサス甲府	閉鎖

リニアを名目にした過剰な大公共事業・大土木事業が目的なのか？

・過剰なリニアメリット効果予測は、大規模な公共事業に結びつけられています。

●山梨県行政の素案・試案では

リニア駅周辺整備計画 28 ヘクタールの内容は

- ・駅前広場（リニア駅利用者日平均 1 万 2300 人 ピーク時 1230 人） 約 6 ha
- ・観光機能（観光案内・情報インフォメーション・物産展示・販売）約 1 ha
- ・憩い交流機能（展望施設） 約 6ha
- ・産業振興機能（研究施設などを誘致） 約 5 ha
- ・スマートインターチェンジ約 4 ha
- ・パーク＆ライド駐車場（1 6 3 0 台） 約 5ha + そのほか

リニア新駅への交通網

- ・甲府駅をはじめ県内各地のからの**アクセス交通体系の整備**など
- ・荒川堤防を専用道路とする
- ・**新御坂長大トンネル計画**も

●この周辺整備計画の 28ha の広さとは東京ドームの広さの 6.5 個分であり、甲府駅北口の藤村記念館のある「よっちゃばれ広場」の 58 箇所分です。まさに大玄関口ですが、必要あるとは思えません。

●「ピーク時 1230 人」??? とは。リニアは 100%の座席が埋まったとしても 1000 人しか乗れません。また 1 時間に発着は 1 本です。これも過剰な予測であり、甲府駅の機